

平成 30 年度 学校関係者評価報告書



令和元年 8 月

学校法人 岡山科学技術学園
岡山科学技術専門学校

I 平成 30 年度 学校関係者評価について

学校法人岡山科学技術学園 岡山科学技術専門学校は、文部科学省が平成 25 年 3 月に策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校関係者評価委員会を開催し、平成 30 年度の学校関係者評価を実施しました。

評価にあたっては、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について協議するとともに、関係の委員の方々から貴重な御意見や御提言をいただきました。

協議を通していただきました御意見や御提言等は、大項目ごとに要約し、「平成 30 年度 学校関係者評価報告書」として取りまとめました。

本報告書の内容につきましては、校内の運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき改善等の具体案を作成し、次年度の学校運営等の改善や学科教育方針の見直しに活かすとともに、本校の教育理念でもあります「技術教育を通じての人間教育」をより充実させ、産業界で活躍できる有為な職業人の育成に繋げて行く所存です。

令和元年 8 月 1 日

学校法人 岡山科学技術学園
岡山科学技術専門学校
校長 大 月 秀 之

II 学校関係者評価委員名簿

氏 名	所 属	関連学科 (学科略記号)
氏家 隆司	株式会社リョービシステムサービス 執行役員	情報システム学科 (C)
栗田 真志	株式会社ブローバ 代表取締役	映像音響学科 (V)
小上 敏寿	旭電業株式会社 総務部総務課	電気工学科 (E)
内倉 直	嘉美心酒造株式会社 取締役 杜氏	バイオサイエンス学科 (B)
石居 祐二	株式会社和田組 業務部 人材開発育成担当部	建築工学科 (K)
木山 英治	株式会社ジツタ中国 岡山店 店長	測量環境工学科 (N)
岡田 和久	東海メンテナンス株式会社 代表取締役社長	ものづくり工学科 (S)
森 幸久	マルケー自動車整備株式会社 総務課長	一級自動車工学科 (LM)
岡本 賢岳	西日本三菱自動車販売株式会社 岡山営業本部 サービス担当部長	二級自動車工学科 (M)
富谷 篤也	日産車体岡山株式会社 事業部長	自動車カスタマイズ学科 (F)
薮田 尊典	岡山科学技術専門学校 同窓会 会長	全科
山本 佳子	岡山科学技術専門学校 保護者会 会長	全科

Ⅲ 大項目ごとの現状・課題と関係者評価・意見

1 教育理念

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	学校の理念・目的・育成人材像は適切に定められているか	3.4	94.8%
2	学校の特色はうまく（適切に）表現できているか	3.1	77.6%
3	学校・学科の将来構想（3～5年を見据えた）を抱いているか	2.9	67.2%

右欄は4または3と答えた人数の割合（%）を示す

(2) 現状

- ①教育理念、目的、育成人材像については、教育活動方針に定め、全教職員達成に向け取り組んでいる。
- ②本校の教育目標は、工業系の総合専門学校として社会に貢献できる心豊かで逞しい技術者の育成である。専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実を教育活動の柱とし、社会の変化に柔軟に対応できる、即戦力となる技術者の育成に努めている。
- ③職場懇談会等の理事長講話を通して全教職員に将来構想を周知している、また、学科においては、学科所属の全教員の意思疎通を図り、職業実践専門課程認定学科として、3～5年後を見通した学科像を策定している。

(3) 課題及び改善策

(4) 考察

今後も、「技術教育を通じての人間教育」の下、質の高い実践的な専門教育の充実、資格取得の向上、進路指導の一層の充実を柱とした教育を推進する。工業系の総合専門学校として、また、「職業実践専門課程」認定校として、国際化や科学技術の進展に対応した実践的な知識・技術・技能の習得に重点をおき、心豊かで逞しい技術者の育成を目指し日々の教育活動に取り組む。

(5) 関係者評価・意見

評 価 : 3.1
意 見 : なし

2 学校経営

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	3.1	89.3%

2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.1	82.1%
3	運営組織や意志決定機能は明確になっているか	2.8	63.6%
4	人事・給与に関する規定等は整備されているか	3.2	82.1%
5	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.4	94.7%
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.9	70.9%

右欄は4または3と答えた人数の割合（％）を示す

（２）現状

- ①本校教育を取り巻く諸情勢を踏まえて経営方針、教育活動方針を策定し、年度当初の教職員全体会議において非常勤を含む全教職員に周知している。また、職場懇談会等で適宜確認をしている。
- ②経営方針並びに教育活動方針に基づき事業計画を策定している。
- ③組織図及び職務分掌表に基づき階層的に権限・義務・責任を設け、意志決定機能の明確化に努めている。
- ④人事・給与については、就業規則並びに賃金規程を整備し適正に行っている。
- ⑤教育活動に関する情報は、学校概要、教育活動方針、自己点検・自己評価、学校関係者評価、研究紀要をホームページ上で年1回更新するとともに、学校案内やカギセンニュースを通して広く公表している。
- ⑥校内の全業務を管理するシステムを導入し5年が経過した。今後も関係部署との情報交換を密にし、運用・利用方法の拡大・改善に向けた検討を進めていく。

（３）課題及び改善策

- ①運営方針の策定に多くの教職員の意見が反映されていない。
- ④業務量と賃金との公平性、通勤に関する内容の検討をお願いしたい。
- ⑥スクールリーダーは、業務に適応できていない部分があり、利便性に欠ける。エクセルのデータの活用ができれば、効率性が増すと思う。不具合への対応は迅速にお願いしたい。

（４）考察

学校経営については、社会の情勢や関係部署の総括を踏まえて運営方針を策定し、組織や分掌等の周知や協議内容等の情報の共有を図り、計画の実現に向け組織的な運営に努める。

給与の面については、一層の透明化を図る。

情報のシステム化については、新システム導入後5年が経過し、毎年課題改善に努めている。新たな課題や要望については、関係部署との情報交換を密にし、運用・利用方法の拡大に向け、迅速な対応に努めたい。

（５）関係者評価・意見

評 価：3.1

意 見：人事・給与等に関しては、どのような評価を行っているのか。
運営方針の策定に教職員の意見が反映するきまりがあるのか。
評価項目6項の情報システム化による業務の効率化はどうか。

3 教育活動

（１）自己評価結果

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	教育理念等に沿った教育課程を編成しているか	3.2	93.0%
2	学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.2	84.2%
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.2	87.7%
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.4	91.2%
5	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.3	82.5%
6	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	3.2	86.0%
7	指導力のある教員の確保に努めているか	2.6	58.2%
8	先端的な知識・技術・技能等の教員研修や指導力など資質能力向上の取組が行われているか	3.0	78.9%
9	教職員の能力開発のための研修が行われているか	3.1	76.8%

右欄は4または3と答えた人数の割合(%)を示す

(2) 現状

- ①教育理念を前提とした教育活動方針、学科教育方針、また、教育課程編成委員会での提言も踏まえ、豊かな人間性と実践的な知識・技術が習得できる教育課程を編成している。
- ②カリキュラムは、育成する学生像を到達目標として編成している。また、学生に何を身に付けさせるかを明確にした各教科目のシラバスを作成し、授業時間数の確保や社会のニーズに即した教育活動を推進している。
- ③カリキュラムは、学科教育方針に基づき、実習を重視しつつ講義や実習が系統的・体系的に学べるよう編成している。
- ④授業評価は、教育の質の向上の観点から教員評価の一環として位置づけ、学生による授業アンケートを年2回、教員による授業評価を年1回実施し、管理職による授業評価と合わせ総合的に評価している。
- ⑤教務内規で明確にしている。
- ⑥学科教育方針に基づき年間を通して系統的、計画的に実施している。
- ⑦教職員の確保については、教職員としての資質・能力、指導力、豊かな人間性を備えた人材の確保に努めている。
- ⑧企業、関係団体による技術研修会や公開授業等を実施し、技術・技能や指導力の向上に努めている。
- ⑨外部講師を招聘した教員研修やテーマを設けた全教員実施の公開授業等により、教職員の資質・能力の向上に努めている。

(3) 課題及び改善策

- ①②③各学科の考え方、判断基準がまちまちである。また、資格取得に偏りすぎている。業界が求める人材を見据えた科目編成が必要である。
- ②③担当授業時間数が多く、教材研究で手一杯である。ねらいを持った授業を行う余裕はない。
- ⑤成績評価基準が変動的かつ不明確である。早急に明文化すべきである。
- ⑦日本語教育においては慢性的に担い手不足である。年度の節目に関わらず、優秀な人材の確保に努めてほしい。

- ⑨教員自らが勉強することが大切であるが、現状は負担増により研修の時間が確保しにくい。研修日程の調整、非常勤講師増などの検討をしてほしい。

(4) 考察

今後も、豊かな人間性と社会の変化に対応できる実践的な知識・技術・技能を備えた技術者の育成を目指した、適切なカリキュラムの編成に努める。また、教育の質の向上に向け、授業の工夫・改善に積極的に取り組む。6S管理の徹底やビジネス教養の充実を図り、社会性を身に付けさせる。

教育の充実に向け、教員の計画的な確保に一層努力する。

留学生について、入学選抜においては、公正、公平、適切な選抜を一層推進する。また、4年間を通しての指導の充実に向け、関係部署間の情報の共有を図り、協調体制を強化する。

教職員研修については、全教職員向けの校内研修を行う。専門分野については、関係企業や外部機関での講習会や見学会により積極的に参加し、資質・能力の向上を図る。

(5) 関係者評価・意見

評価：3.1

意見：学習指導、資格取得に加えて6S指導を徹底し人格を磨き上げ企業へ送り出してほしい。

現状の人員体制の中で様々な取り組みをしており申し分ない。

教員の先端技術の習得は非常に良い。今後も様々な分野（大型車両など）での講習会に参加し学習指導に反映されると良い。

国家試験の高合格率は非常にありがたい。企業の人員不足に伴い、特に「即戦力」となりうる人材確保に務めていただきたい。

「仕上がりの精度」を求められる観点から塗装技術に限らず ボデーの材質も多様化しており新技術の習得が要求される。経験や勘を脱し、技能に基づいた調色の方法や塗装技術が必要。

4 学修成果

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	就職率の向上に努めているか	3.4	89.3%
2	資格取得率の向上に努めているか	3.3	91.2%
3	退学率の低減に努めているか	3.0	80.7%
4	卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.9	68.4%

右欄は4または3と答えた人数の割合（％）を示す

(2) 現状

- ①企業訪問や説明会、進路指導連絡協議会等、就職推進課、進路指導課と学科長・担任が連携し、学生一人ひとりの適性を生かした就職支援に努め、早期決定と内定率の向上を目指した指導に取り組んでいる。
- ②学科単位で目指す資格を掲げ、1年次から高い合格率を目指し計画的な指導を行っている。
- ③学生の日頃の様子を観察するとともに、家庭との連携を密にした指導により、退学者の提言に努めている。

④今年度、学生の就職指導、卒業生の支援に役立てるため、就職先の企業に対し、卒業後 5 年間の卒業生の状況調査を実施した。また、高校の関係者からの卒業生の情報収集にも取り組んでいる。なお、企業の方等からの意見や課題等については、各学科へフィードバックし、指導内容・指導方法の改善に努めている。

(3) 課題及び改善策

- ①連携はほとんどできていなく、実態は担任任せである。担任だけでなく、課としての組織の立て直しが必要である。
- ③退学防止策が不十分である。学生の早期ケア、また、担任、学科長、課長が協力して対応する必要がある。
- ④卒業生の活躍の情報をもっと積極的に収集した方がよい。

(4) 考察

教職員（担任、学科、課）が協力した、組織的な対応に努める。

就職については、校内だけでなく、関係機関とも連携しながら個に応じた指導に努め、学生の自己実現を支援する。

退学率低減については、学生への声掛けや教職員間の連絡を密にし、情報の共有を図るとともに、保護者とも連携したきめ細かい指導に努める。特に、留学生の実態把握に努め、指導・支援体制の確立を図る。

卒業生の把握については、同窓会との連携、また、就職推進課と各学科が協力した積極的な企業訪問を通して、企業のニーズや卒業生の活躍等の情報収集、分析、活用にも努める。

(5) 関係者評価・意見

評 価：3.2

意 見：コミュニケーションにたけた人材が欲しいので、人間力向上を促してほしい。

電気工事業界では資格がないと話にならないが、コミュニケーション能力はより大切だ。

インターンシップは、業界の理解につながりやすいので、今後も受け入れたい。

ただし、現状、留学生については相対的にコミュニケーションの面(日本語力)で管理者としての採用は難しい。

コミュニケーションは人間関係をうまくしていくが、挨拶さえできないようでは困る。

学校でどのように教育されようとも、仕事に入れば物心両面の幸せを追求する職業学校のイメージをもち実践教育をしていきたい。

一昔前とはシステムが様変わりした。極力、実践ができるように育ててほしい。

就職をすると仕事をしながら資格は取りにくいので学生のうちに取得してほしいし、一方でコミュニケーション能力を養ってほしい。

評価項目 3 項について年間の退学者数とその主な原因は何か。

5 学生支援

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.1	81.0%

2	学生相談に関する体制は整備されているか	2.8	63.2%
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.8	63.2%
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.7	57.9%
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.7	59.6%
6	保護者と適切に連携しているか	3.1	85.5%
7	卒業生への支援体制はあるか	2.7	60.7%

右欄は4または3と答えた人数の割合(%)を示す

(2) 現状

- ①就職推進課を中心に進路指導連絡協議会、進路指導の日、企業説明会等を企画し、組織的、計画的な就職支援体制が確立している。また、留学生の進路指導についても、進路ガイドの充実や日本語能力の向上に向けた体制づくりに努めている。
- ②担任を中心に、日々の教育活動や SHR 等を通して問題を抱える学生のシグナルをいち早くキャッチし、早期に対応できる体制を整えている。
- ③特待生制度による奨学金の給付や授業料等の分納について個別に相談に応じるなど支援を行っている。また、今年度、新たな奨学金規定を設け支援体制の充実に努めている。
2020 年 4 月より実施される高等教育の無償化に向け、支援措置対象校となるための準備・検討を進めている。
- ④学生課に健康管理を担う厚生係を設け、学生の健康診断等の職務にあたっている。また、専門機関との相談体制は徐々に整ってきているが、専門医や専門機関と連携してサポートする体制については検討中である。
- ⑤部活動等の課外活動については顧問を選任し、活動費の予算措置も講じている。
- ⑥電話連絡や家庭訪問等、保護者と連携したきめ細かい指導を行っている。また、保護者会が組織されており、役員会での意見交換をはじめ、学校行事への協力や教育備品の寄贈、部活動への支援等、学校と連携して教育環境の整備に取り組んでいただいている。
- ⑦今年度、同窓会が学校創立 30 周年を期に名簿作成と総会を開催した。卒業生相互の絆を深めるとともに、卒業生の動向把握に繋がる活動となった。

(3) 課題及び改善策

- ①②③④学生支援の面からも、福利厚生面の面からも全く不十分である。また、学生の自主自律を伸ばす取組も必要である。
- ⑥課題を抱えた学生の早期ケアに向け、教員同士できめ細かい十分な相談が必要である。
留学生の保護者への連絡が必要である。また、留学生は連絡を故意に拒むケースも多く、学校からの呼びかけに応じない場合は厳しい指導も必要である。
- ⑦同窓会が名簿を作成したものの、卒業生への支援には至っていない。

(4) 考察

情報を共有し、担任、学科長、課長が協力した組織的な対応を推進する。
保護者とも密接に連携し、生活面・進路面の支援の充実に努める。また、専門医と連携して学生をサポートする体制を整備・充実させる必要がある。
留学生については、国際教育局、日本語学科、専門学科、就職推進課（進路指導課）との連携を強化し、日本語能力の向上、専門教育の指導の工夫、生活実態の把握に努め、指導と支援の充実を図る。特に、日本語学科からの進学指導において、関係部署間の情報の共有、協調した指導体制を確立し、留学生の自己実現の支援の充実に努める。
卒業生の支援については、同窓会、企業後援会との連携を密にし、卒業生の動向把握と職場定着に一層努める。

(5) 関係者評価・意見

評 価：2.8

意 見：学生支援の観点より同窓会からスクールバスを寄贈させて頂いた。

6 教育環境

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか	2.7	60.3%
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.0	80.7%
3	防災に対する体制は整備されているか	2.9	75.9%

右欄は4または3と答えた人数の割合（％）を示す

(2) 現状

- ①施設・設備は、専門教育の推進に対応できるよう、可能な限り整備に努めている。
- ②今年度は、長期インターンシップの試行期間として、学校での事前・事後指導も含め 100～200 時間のインターンシップを実施した。また、企業での先端技術習得に向けた研修やイベント等へも積極的に参加している。なお、海外研修は今年度も未実施である。
- ③防災に対する体制は整備されている。安全点検や避難訓練、救命法講習会を実施し、教職員の安全意識の向上、迅速な危機対応能力の向上に努めている。今後、さらに危機管理マニュアルの内容を充実させ、全教職員への周知を徹底し、緊急時の迅速で適切な対応に努めたい。

(3) 課題及び改善策

- ①トイレを新しくしてほしい。実験・実習施設が不十分である。
インターネット環境はやや改善された。学生一人ひとりの活用能力を高める必要がある。
- ③消防署の指導・講話も含め、避難訓練は毎年実施が必要である。

(4) 考察

実習設備等の充実については、技術の進展や養成施設としての要件等を考慮しながら、優先順位を設け、設備の更新や新設を進め現場に即した学習内容の充実を図りたい。年2回のアンケート調査による学生の要望等についても丁寧に回答し、学生の学習意欲の向上や社会での適応力の向上に繋げたい。また、企業との連携した実習やインターンシップの取組を充実させ、質の高い先端的・実践的な教育の充実を図る。また、コミュニケーション能力や職業観・勤労観の育成にも繋げたい。

安全・安心の意識の高揚を図るとともに、危機管理マニュアルの内容を充実させ、適切な防災対策・緊急対応に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

評 価：2.9

意 見：可能であればトイレについて和式を洋式にまたウォシュレットを新たに設置できないか。

7 学生の受け入れ募集

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	学生募集活動は、適正に行われているか	2.8	69.0%
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2.8	69.0%
3	学納金は妥当なものになっているか	3.2	86.0%

右欄は4または3と答えた人数の割合(%)を示す

(2) 現状

- ①募集広報課を中心に、専門学科と連携して計画的な高校訪問やガイダンスへの参加に努めている。また、日本語学科入学希望の留学生についても、アドミッションポリシーを明確に示し、意欲、学力、経済的な面等を総合的に判断した適正な受け入れに努めている。
- ②教育成果は、ガイダンスや高校訪問等において正確に伝えるとともに、ホームページ上からも定期的に発信している。また、年度当初のお仕事体験フェスタに、工業系の総合専門学校として5学科が参加し、工業の魅力、学校・学科の魅力の発信に努めた。
- ③他の専門学校と同等であり、適正な金額である。

(3) 課題及び改善策

- ①②教員の負担が大きすぎる。
- ①広報と教員の連携、戦略が整っていない。
- ②学科の強みをパンフレットやチラシに明確に打ち出せていない。内容を精査する必要がある。

(4) 考察

募集広報課と各学科との連携を一層強化し、広報会議等を通して情報の共有と多角的な分析に努め、計画的・戦略的な高校訪問等を協力して行い、学生確保に努める。また、魅力ある学科づくりとその魅力の効果的な発信にも協調して取り組む。

留学生については、日本での就職を念頭に、入学時から目的意識、日本語能力、経済状況などを的確に把握し、4年間の教育という観点を踏まえた適切な指導・支援・対応に努める。

(5) 関係者評価・意見

評 価 : 2.9
意 見 : なし

8 財務

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.6	62.0%

2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.9	68.0%
3	財務について会計監査が適性に行われているか	3.3	90.0%
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.2	84.0%

右欄は4または3と答えた人数の割合（％）を示す

(2) 現状

- ①学校の中長期的経営基盤は安定しているといえる。学生の確保に努め、財務の健全化に努めたい。
- ②事業計画に基づき予算・収支計画を策定し、適正に執行されている。
- ③毎年理事会において監査が行われ、適正な運用がなされている。
- ④財務状況は、理事会の監査を経て校内の職場懇談会において公表している。

(3) 課題及び改善策

(4) 考察

今後も学生の確保に一層努め、財務の健全化に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

評 価：3.0
意 見：なし

9 法令等の遵守

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.3	93.0%
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.2	93.0%
3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.1	83.9%
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	3.4	94.7%

右欄は4または3と答えた人数の割合（％）を示す

(2) 現状

- ①法令及び専修学校設置基準を遵守し、各法令に準拠した適正な学校運営がなされている。
- ②個人情報については、コンプライアンスに基づき厳重な管理がなされている。
- ③毎年度自己点検・自己評価を実施し、課題等を明らかにするとともに問題点の改善に取り組んでいる。
- ④ホームページ上に公開している。

(3) 課題及び改善策

- ②個人情報に記載されている用紙を再利用しているケースが目立つ。一人ひとりがもっと自覚する必要がある。

③問題点について教職員が納得していない気がする。

(4) 考察

各部署での分析、総括を踏まえ、課題を共有し改善に努める。また、今後も法令遵守に努める。

(5) 関係者評価・意見

評 価：3.3

意 見：なし

10 社会貢献・地域貢献

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.0	78.6%
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.2	92.9%
3	公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	2.9	73.2%

右欄は4または3と答えた人数の割合（％）を示す

(2) 現状

- ①大学生へのペインティング指導や各種団体への貸校舎等による本校施設の活用を推進している。
- ②今年度、学生課の重点目標にボランティアの推進を掲げ、清掃ボランティア、災害ボランティアへの参加を促し、意識は徐々に高まってきている。特に、留学生の意識が高く、積極的な参加が見られた。学生の自主的活動の充実も図りたい。
- ③高校等への出前授業、子供向けイベントや各種イベントも積極的に取り組んでいる。また、専門実践教育訓練の施設として5学科が認定を受けている。社会人の学びの場としても、今後さらに教育の充実を図り、社会のニーズに応えていきたい。

(3) 課題及び改善策

- ②学生の多くはアルバイトで忙しく、ボランティア活動や自主活動に参加しにくい。

(4) 考察

学校や外部団体主催のボランティア活動への参加を積極的に促す。また、学生の自主的な活動を支援する。

出前授業や地域の活性化に向けた活動への協力等を通して、地域への貢献とともに、学生の成長、豊かな心の育成を図る。

また、専門実践教育訓練施設として、厚生労働省より5学科の認定を受けている。専門実践教育訓練給付制度の趣旨・目的を企業等にも十分説明するとともに、さらに教育の質の向上を図り、社会人が中長期的なキャリア形成のための能力の習得を目指す、学び直しのできる教育機関としても、社会に貢献していきたい。

地域・社会に求められる学校、貢献する学校として、今後も充実させることが重要だと思う。

(5) 関係者評価・意見

評 価：3.0
意 見：なし

IV 学校関係者評価委員会について

学校関係者評価委員会は、参加者の日程の都合等により、次の2グループに分けて開催した。本報告書は、それぞれのグループから出された意見等を集約したものである。

第1グループ 令和元年6月7日（金）15:00～17:00

出席委員：氏家 隆司、森 幸久、岡本 賢岳、富谷 篤也、薮田 尊典

第2グループ 令和元年6月10日（月）10:00～12:00

出席委員：栗田 真志、小上 敏寿、内倉 直、石居 祐二、木山 英治、
岡田 和久、山本 佳子

V まとめ

今回、各委員からいただきました御質問については、学校長、事務局長、各学科長が本校の現状と今後の取り組みについて説明し、御理解をいただきました。また、御意見や御提言等は、可能なところより令和元年度の教育活動に取り入れ、本校教育の一層の充実に取り組んでいく所存です。

おわりに、平成30年度学校関係者評価委員会を開催するにあたり、御多忙にも関わりませず御出席を賜りました委員の皆様に、心から感謝申し上げます。